

公益財団法人庭野平和財団主催  
庭野平和賞公開シンポジウム 2025

# 宗教はジェンダーバイアス 克服になにができるか ～内発的変革の可能性～



2025

5/17 SAT 13:15～15:30  
(受付開始: 12:45)

第1部: 基調講演: ジーバ・ミル＝ホセイニ (第42回庭野平和賞受賞者『ムサーワー』共同創設者・理事)  
第2部: パネルディスカッション



会場: セレニティホール  
〒166-0012 東京都杉並区和田1-3-20



東京メトロ丸ノ内線「中野富士見町」駅下車徒歩5分  
JR中野駅発京王バス永福町行 & 永福町駅発京王バス中野駅行「中野富士見町駅入口」  
JR新宿駅西口発京王バス校成会聖堂前行「校成行学園」下車すぐ



お申し込みはこちらから (5/15 締切)  
[https://x.gd/NPP42\\_symposium](https://x.gd/NPP42_symposium)

問い合わせ先: 庭野平和財団 庭野平和賞担当  
([npp\\_program@npf.or.jp](mailto:npp_program@npf.or.jp))



公益財団法人  
**庭野平和財団**  
NIWANO PEACE FOUNDATION

〒166-0022 東京都新宿区新宿1-16-9  
シャンヴィラカテリーナ 5階  
URL: [www.https://www.npf.or.jp](https://www.npf.or.jp)  
E-mail: [info@npf.or.jp](mailto:info@npf.or.jp)

# 登壇者紹介



ムサーワー 理事長・共同創設者 (第42回庭野平和賞受賞者)  
ザイナ・アンワール

パネリスト

マレーシア出身。ジャーナリズムおよび法学・外交学修士号を取得後、政治・外交記者、戦略研究所上級アナリスト、英連邦事務局職員として国内外で活躍。ムサーワー創設者のひとりで、2021年まで初代事務局長を務めた。国連マレーシア賞やハーバード法科大学院による顕彰を受け、オンライン国際女性博物館より「世界を代表する10人のイスラム女性」に選出される。著書に『From Local to Global』など。

ムサーワー 理事・共同創設者(第42回庭野平和賞受賞者)  
ジーバ・ミル=ホセイニ

基調講演・パネリスト



イラン出身・英国在住の法人類学者。イスラム法伝統や女性の権利、開発を専門とし、イランやモロッコで調査研究に従事。ケンブリッジ大学で博士号を取得、ロンドン大学SOAS等国内外の大学で研究・教育活動に携わってきた。映画『イラン式離婚』で英国アカデミー賞を受賞。ムサーワーの知識構築WGではイスラームとジェンダーに関する知の再構築に尽力。複数の国際諮問機関に所属し、学際的・実践的な活動を続けている。



清泉女子大学 キリスト教文化研究所客員所員  
松井 ケテイ

ファシリテーター

米国ゴンザガ大学リーダーシップ研究プログラムにて博士号取得。紛争解決、平和学、修復的正義と和解のためのスキル開発を専門とし、日本平和学会、国際平和教育研究所、グローバル・パートナーシップ、北東NARPIの研修にも継続的に関与。現在、ハーグ平和アピール、平和教育グローバルキャンペーン諮問委員、WCRP日本委員会女性部会長。元清泉女子大学地球市民学科教授。

WCRP日本委員会 女性部会 副部会長  
河田 尚子

パネリスト



関西学院大学文学部博士課程後期課程東洋史専攻卒業。文学修士。1997年4月にイスラームに入信。日本人女性のためのイスラーム勉強会アル・アマーナを主催。WCRP宗教者平和委員会女性部会副部会長。Secretary General of Asia Pacific Women of Faith Network。著書に『日本人女性信徒が語るイスラーム案内』 2004年 つくばね舎、『イスラームと女性』 2011年 国書刊行会 (編著)。



WCRP日本委員会 理事長、浄土宗心光院 住職  
戸松 義晴

パネリスト

慶應義塾大学、大正大学大学院を経て、ハーバード大学大学院神学校で神学修士号を取得。93年から心光院住職を務め、全日本仏教会理事長、日本宗教連盟理事長などを歴任、2022年からWCRP日本委員会理事長を務め、現在は浄土宗総合研究所副所長、国際医療福祉大学特任教授。

アジア学院理事長、日本YMCA同盟会長  
山本 俊正

パネリスト



立教大学卒、米国パシフィック神学校神学修士。合同メソジスト教会正教師として米国・日本で牧会・宣教に従事。日本キリスト教協議会(NCC)総幹事、関西学院大学教授等を歴任。現在、アジア学院理事長、日本YMCA同盟会長。著書に『アジア・エキュメニカル運動史』、訳書に『神との冒険』、共著・監修多数。